

主催：膜生物学・医学教育研究センター 膜生物学・医学学術講演会

日時：2015年12月3日（木） 17：30～

場所：共同会議室（研究棟B 2F）

## 徳永 勝士先生

東京大学 大学院医学系研究科  
人類遺伝学分野 教授



# 疾患感受性遺伝子・薬剤応答性遺伝子の ゲノム全域探索研究：現状と展望

(New perspectives in genome-wide search for disease susceptibility genes and drug response genes)

### 【要旨】

我々はさまざまな多因子疾患や薬剤・治療応答性に関する国内・国際多施設共同研究に参加し、ゲノム全域関連解析（GWAS）などによる遺伝要因の探索を担当してきた。最近の成果のいくつかを紹介するとともに今後の展望についても議論したい。(1) 関節リウマチなど各種の多因子疾患について、国際共同研究や大規模メタ解析によって多数の新規感受性遺伝子が同定された。これらから、複数のパスウェイの発症への関与が示されるとともに、新たな治療標的が見出された。(2) ナルコレプシー、B型肝炎ウイルス関連疾患など多数の疾患に対する感受性、およびいくつかの薬剤に対する過敏症に、HLA遺伝子群が最も強い関連を示した。感冒薬に関連するスティーブンス・ジョンソン症候群の遺伝要因の探索研究の現状を紹介する。(3) 1型糖尿病などの自己免疫疾患とHLAの関連の分子機序について、HLAタンパクに提示される抗原ペプチドの特異性のみならず、HLAタンパク自体の安定性が強く関与することを提唱した。(4) GWASデータに基づくgenome-wide imputation、およびHLA遺伝子型を推定するHLA imputationの有用性がわかってきた。次世代シーケンサーの活用による遺伝要因の探索例とともに紹介したい。

・ 大学院「先端医学トピックス」講義としても開講します・

コーディネータ：神経内科学 教授 戸田達史 (TEL: 6287 E-mail: [todalab-hisho@med.kobe-u.ac.jp](mailto:todalab-hisho@med.kobe-u.ac.jp))  
連絡先：研究支援課研究企画係 (TEL: 5195 E-mail: [k9shien@med.kobe-u.ac.jp](mailto:k9shien@med.kobe-u.ac.jp))